援)



だよい

このニュースレターは、市町社協の生活支援コーディネーター、住民等が創意工夫し ながら行われている生活支援、地域活動をお伝えするために発行いたします。

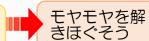
生活支援コーティネーター基礎セミナー開催

令和5年8月4日と8月22日の二日間にかけて、生活支援コーディネーター基礎セミナーを開催 しました。社会人になって間がない、異動で生活支援 CO になった等々、さまざまな背景の生活支 援COが、緊張した面持ちで集まりました。しかし、「しゃべる」「知る」「伝える」等、基本から学 ぶ二日間の研修が終了した時には、どこかすがすがしく会場をあとにされてました。

今年度の基礎セミナーの流れ

1 日目→

生活支援体制整 備事業とは



まずは知ろう

伝えよう

2日目→

話し合う・対話 って何だろう



先輩生活支援 CO から話を聞こう



小さなチャレンジが大切

この事業は高齢者だけを対象にしていない。高齢者は支える人という画一的なことではなく、日常の中で介護予防になるような活動、社会参加を増やす。 住民主体は、手段ではなく目的(福本)

1日目

生活支援体制整備事業とは

事業の大事なこと:サービスが増 えると、近隣住民が離れてつなが りが薄くなり、さらにサービスが 必要になる悪循環が起こる。サー ビスだけでは孤立が防げない。



報告者 兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部長 福本 良忠

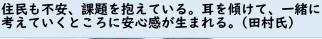
モヤモヤを解きほぐそう!

※事前チェックリストを利用し6つのテーマに分かれました。

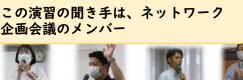


進行 NPO 法人なごみ 事務局長田村 幸大氏











生活支援コーディネーター ネットワーク企画会議

生活支援体制整備事業の推進に向け て、生活支援コーディネーターが主体 となり、ネットワークを構築しながら互いに支え合う仕組みと自主的な学び の場の検討を行うことを目的として設 置されました。

参加者の感想

- ・以前から、生活支援 CO として聞いてみたいことがあ り、実際に質疑ができて良かった。
- ・同じ悩みを抱えている生活支援 CO がいるのだとわか り、自分だけではないと安心した。

【発行元】(令和5年9月29日発行)

- 〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号 兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部 TEL 078-242-4634 FAX 078-242-0297
- E-Mail: seikatsushien@hyogo-wel.or.jp (担当:富永·永坂)

まずは知ろう!

- ①「知識&学習」よりも

そして、伝えよう!



「共通点に関心をもつと 人は身近に感じ、違いに 関心をもつとその場に深 まりを生む」(田村氏)

参加者の感想

- ・自己紹介を通して、共通点だけでなく、お互いの違いに関心を 持つことで、その場に深まりが生まれることに気づけた。
- ・共通項に親しみ感じるということを改めて実感し、自己開示す ることの大切さを知った。

事務所にある







身近にあるものでも、話し合うことでグル -プは全部違っていた。地域に伝える、支



「アレ」が









参加者の感想

・単に言葉や文字のみではなく、身近にあるものなど でいろんな伝え方や表現ができるといったこと。

2日目

話し合う?対話って何だろう?

講師:兵庫県立大学 准教授 竹端 寛氏



相手のニーズを丁寧に、 聞きながら対話を仕掛け ることにより、 嫌々で の参加の場ではなく、自 分らの困り事を解決する ような場だと住民は主体 的に思えるようになる。



NPO 法人はなの家 理事長: 内海 正子氏



三田市社会福祉協議会 第1層CO:畑 清美氏

会話〜対話〜議論。毎日、朝礼、終礼を行い日々の「あれ?」を積み残さない。組織 内外の専門職と関係機関と、 地域や当事者について対話 を持ち、当事者の人たちの困 っていること、またはこの人 たちができることをすり合 わせ共有する。みんなが集ま りたいタイミングを見計ら って自分たちのやりたいこ とを狙ってる。

まずは自分を知ってもらう。できない自分で十分、わからなければ 100%聞けばいい。まず、率先してやってみる。 | 人 でやるんじゃなくて、一緒に手伝ってくれる、それを実現可能にしてくれる人をき込みながらだっていく。だから、自 分 | 人で完結せずにやってみる。

参加者の感想

- ・自己開示を行いながらまずは相手のことを知り、丁寧に対話の機会を設けることが大切だと学んだ。
- ・困りごとをこちらから探すのではなく、聞こえてくる関係になるというのが大切ということが印象深 かった。

先輩の生活支援 CO から話を聞こう







加東市地域包括支援センター 第1層CO:青野 真理子氏

3年目になって、行政、 I 層、2層の3つの領域を俯瞰できるようになった。他課との連携を強みに、2層 CO を頼りながら、成功体験を励みにしている。



豊岡市社会福祉協議会 第2層 CO: 小谷 亮太氏

自分にできるやり方で地域と関わるってこと。周りの人を頼ろう、I人で、抱え込まないことが大事。



明石市社会福祉協議会 第2層CO:山岡 和希氏

4つのモヤモヤ。3回の異動、山岡流で地域の理解を深めながら、伴走できる仲間として、地域のストーリーに関わっていきたい。

参加者の感想

- ・「モヤモヤ」は解消されても次の「モヤモヤ」が生まれる が、その付き合い方のヒントが沢山詰まっていました。
- 対話の中でポロッと出てくるいろんなことが大切で、 ターニングポイントになることがあるのだということ。

小さなチャレンジが大切

- すぐできること
- ちょっと工夫すればできること
- 時間をかけてやりたいこと

参加者の感想

- ・分けて考えることで、漠然とした不安が少し解 消されたように思います。
- ・つなぎ役としてタイミングよく動けるように、 対話を大切にして、困りごとが自ずと聞こえて くる関係性を構築したい。

竹端先生 種明かし

今日行ったことを地域の中で住民と行って みる。 つまり、こういう形で主体的に自分の意見

のまり、こういう形で主体的に自分の意見を何度も言いながら考えるようなことを住民とともに行うプロセスこそ、面白いところであり、住民と一緒に考えることにつながる。

生活支援 CO「えん巡りの旅」: こんなことありました!

元診療所が「藤江かふぇ」に

海を越えてつながる(明石市社協&淡路市社協)

9月1日、明石市の「藤江かふぇ」に淡路市の活動者23名が生活支援COとともに訪れました。「藤江かふぇ」は、地元の医師が提供してくださった居場所(旧診療所)。その成り立ちを熱心に聞き入る淡路の活動者たち。そこには、この居場所ができてつながり救われた方の物語が隠れていました。医師と住民のコラボで実現したあたたかい支えです。いつしか、この支えは、このまちに広がっていきました。住民と医療が自然につながる。そこには心地よい安心感が生まれていました。きっとこれは、海を越えて伝わったことでしょう。

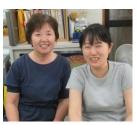
各市町の活 動を教えて ください。





「藤江かふぇ」代表の和やかな語り





淡路市社協:第2層 CO 打越さんと高崎さん

地域が動き出したら、活動資金が・・・。 そんな時は "ココ!!"

兵庫県社会福祉協議会 ひょうごボランタリープラザ「助成金情報」

URL: https://www.hyogo-vplaza.jp/



実践セミナー開催します!! ご予定をお願いいたします。

生活支援コーディネーター実践セミナー

日 時:令和5年11月24日(金)

10:30~16:30 (リアルえんがわナビを 17:30 まで予定)

場 所:神戸市産業振興センター

【編集後記】

昨年から生活支援 CO の養成研修をネットワーク企画会議委員の皆さんが企画から運営まで応援してくださっています。県社協も「わからない、わかった」が話せる、お互いに知り合う、一緒に考える、すぐに声を掛けられる存在がある等々、この基礎セミナーを事前に一年かけて実践してきたような気がします。伝えたかったのは、この安心感とあたたかさ。これを地域に持っていくことができる生活支援 CO になってほしいと感じています。